

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	718A	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.500	△RG	0.058	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：718A**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  4 インチ

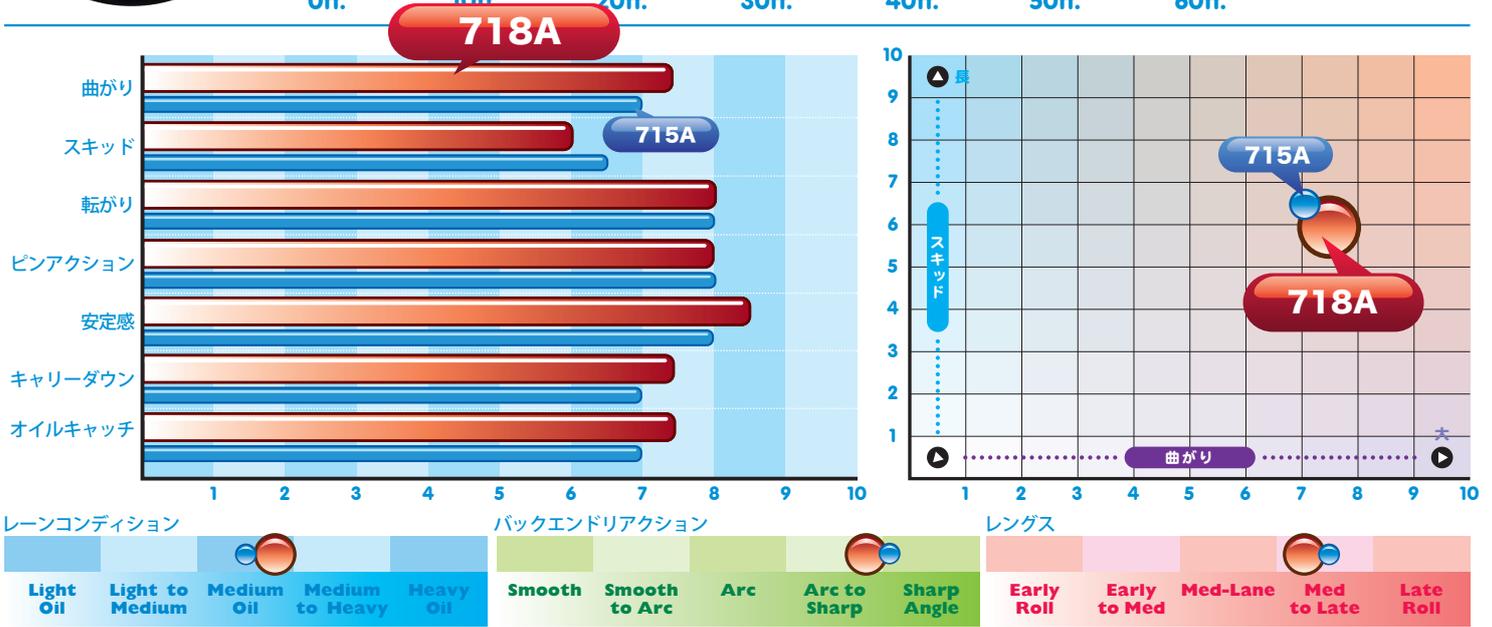
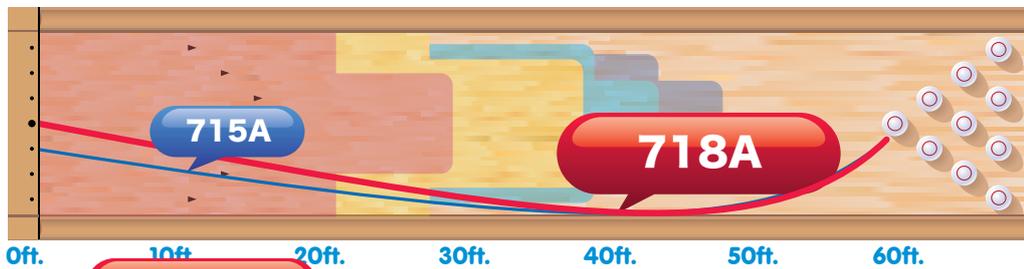
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

**比較対照ボール：715**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  4 インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤



### ボールの評価

715AのUMP Gen 3 PearlリアクティブからUMP Gen 4A Pearlリアクティブへと変革を遂げ、「A」の象徴コアであるCatbackコアを新しくROBOTコアに変更。カバーストック及びコアの持つ総合的な能力を最大限活かせるよう仕上げまでの工程を#500,1000,2000,4000ポリッシュから#800,1000,2000,2000ポリッシュにし、「7」シリーズであっても異なったパフォーマンスを実現させたのがこの718Aです。

同じ「7」領域のカバーストックでも今回のUMP Gen 4A Pearlリアクティブはμ(ミクロン)のレベルで凹凸の数を増やし、上記表面加工でも分かるように#2000の加工を2度施し安定した加工をポリッシュしてあります。

カバーストックの変更及び新しく採用された「ROBOT」コアの影響でしょう、715Aと比べるとややスキッドは短くなり、ミッドエリアでの動き出しの強さをイメージさせるよう設定されているようです。この718Aは「A」の頭文字がもつ「Angular」の性能分布ですが、角が出るイメージの607Aや505Aとは違い、柔らかく切れ込むスキッド・スナップ系の切れ味を持ちながらコントロールしやすい「A」のタイプとでも言うのでしょうか、曲がり始めから切れるまでの動きの読みやすさが今までのAのタイプと違ったイメージで仕上がっているのも好感できます。

トラック社はこれまで「T」、「C」、「A」をほぼ3種類のコアで仕上げてきました。今回心臓部に収められたROBOTコアは新たなトラック社の試みであることは間違いありません。

ナンバーシリーズも定着し、多くのボウラーも魅了してきたトラック社が次に向かう方向性とは？その表れがこの718Aなのかもしれません。

### 特記事項

**atbackコアから新たにROBOTコアを導入し、T・A・C各々のパフォーマンスを違う形で表現し始めたトラック社。絶大なる人気を誇りながらも、留まることなくさらに性能に磨きをかけた第一弾のボールをお試しください。**